

竜王北中学校 学校関係者評価書

令和 5 年 2 月 3 日（金）

（竜王北中学校）学校関係者評価委員会作成

第 1 回 学校関係者評価委員会

実施日：令和 5 年 1 月 3 0 日（月） 5 時～ 6 時

会 場：竜王北中学校校長室

参加者：（学校関係者評価委員）

石合廣光 齋藤一三 小尾裕子 西山正志 岡英幸
（学校側）

依田宏記 青柳俊也 清水美香

I 学校側から提案された内容

- ・ 令和 4 年度自己評価書
- ・ 令和 4 年度自己評価シート集計結果

II 協議された主な内容

- ・ 令和 4 年度自己評価書に関しての意見及び感想。
- ・ 本校の教育活動についての質疑とそれに対する意見および今後の改善策。

< 学校関係者評価書 >

I 全体評価

- ・ 肯定的な回答（A「とてもそう思う」B「そう思う」の合計）が、36 項目中 30 項目で 85% 以上となっていることから、学校運営は概ね良好な状態にあると捉えている。
- ・ 肯定的な回答が低い（85% 未満）項目は、「学校は多忙化解消に努めている」「ICT を効果的に活用した授業」「宿題や家庭学習に対する指導」「地域人材や施設を活用した教育活動」「保護者や地域の要望等を聞く機会、情報収集」「PTA 活動への積極的参加」の 6 項目であった。

II 特 徴

I ・ II 学校目標に関して、学校経営・学校運営に関して

- ・ 多忙化解消及び働き方改革に関わって、部活動の地域移行について
部活動の地域移行には様々な課題点が考えられる。指導者の人物的なことや子どもとの関係への配慮、教員の OB に依頼するのもいいが 65 歳までの定年延長で人材確保が難しいことなどがあげられる。その対応策として、小中体連が中心になって公式試合の精選を行っていくのが良いのではないかと、また、大会を運営するにあたりそこで教員 OB を有効的に活用することが必要ではないかと、あえて地域移行を早急に進めるべきでなく、ゆっくり進めていく方が良いのでは、という意見も出された。
部活動の話題との関連で、生徒数の減少で学校毎のチーム編成が困難であり、合同チームでないと大会に出場できない実態があり、練習場所についても弊害がでていることも出された。

III 学習指導について

- ・ ICT の活用について
ICT ありきの授業内容でなく、あくまでも補助機器として活用することが重要である、という意見が出された。ICT を取り入れることで変化のある授業となり、生徒が興味をもって授業に参加できるなら有効的である。授業者にとっても、班の意見

をまとめて画面で共有できること、今まで黒板で書いていた図を画面上に出して説明できること、生徒の意見を拾いやすく比べやすくなったことなど効率的な運営ができている、ということだった。

クロームブックの持ち帰りについて、本校及び他校の状況を教えてほしい、との意見が出された。本校では自宅でのリモート授業は行っているが、基本的に持ち帰ってはいず、他校では長期休業の際自宅に持ち帰って課題の解決に利用した例が出された。高校に上がったとき、地域による差が出ないようにしてほしい、という要望を受け取った。

- ・「北中ノート」の現状について

昨年まで家庭学習の指導で実施していた「北中ノート」の現状について、どのような状況か、質問が出された。一昨年までは自主学習の一環として、「北中ノート」の活用について校内研究を進めていたが、現在は「学級集団づくり」を主眼に校内研究を進めているので、「北中ノート」の取組が疎かになっている状況は否めない。今後は、そちらも少し進めていきたい、とした。

IV 生徒指導について

- ・「SOS の出し方を示す」の具体的な指導について

山梨大学の川本先生の講演を本校の教員が受け、子どもの声を聞き逃さないことが大切なこと、そして保健室など子どもの声を聞きやすい環境づくりについて学んだ。また、クラスごとに「週末アンケート」による自己評価を毎週実施し、評価が低い生徒への声かけを心がけた、とのことだった。「相談できる先生はいるか」の項目は肯定的回答が比較的高く、先生と生徒との信頼関係が築かれ、相談しやすい環境ができていると思われる、という意見が出された。

- ・不登校について

不登校の割合が比較的高いということを聞いているが、変化はあるか、との質問が出された。欠席が続いてしまっている生徒は、様々な学校からの働きかけに乗ってこず、また、連絡がつかないケースもある。ICTを使いリモートで授業を受ける生徒も数名いる。学級づくりの中で過ごしやすい場所をつくる取組はしているが、芳しい成果とはなっていないとのことだった。また、家庭環境が改善されないと登校への意欲とならないのでは、という意見も出された。

不登校傾向の生徒の進路について、どのようなになっているか質問が出され、通信制を設置する学校が軒並み増えていて、受け皿が増えていることが示された。

V 地域との連携について

- ・行事の見直しについて

P T A バザー等行事の中止や縮小を余儀なくされて3年経つが、コロナ禍が開けたときに全てを元に戻すのではなく、必要な行事の精選と内容の検討が必要、との意見が出された。中でもバザーの負担は大きく多忙化解消を考えるとそのまま元に戻すのではなく、コロナ禍のこの時をチャンスとして見直すべき、また、入学式などの行事において今は来賓を招待できない状況にあるが、子どもたちにとって何が大切かを見極め、これを機に市の校長会でも話し合い、来賓を最小限にすることを検討する必要がある、という意見も出された。子どもたちにとってやってよかったと思える式にしていくことが大切である。

- ・あいさつについて

いつも中学生にあいさつされて嬉しく思っている、という感想が出された。小学校の時はいたずらをしていた児童が、中学校になり学年が上がるにつれてしっかりあいさつができるようになり、この3年間の成長はすごいものだと思改めて感じている、と話された。「おかえりなさい」というと、「ただいま」と応え、これが北中の良い伝統としてつながってほしい、とのことだった。

○ その他

- ・ 校長より、第 3 の制服を取り入れることの報告

人の多様性（性自認等）に対応するため、男女を問わず選べる制服ということで、ブレザーとスラックスという第 3 の制服を取り入れて、選択肢を増やす、との報告があった。令和 6 年度の入学生を対象に、進めていく方向性が示された。制服が高額なために購入が困難な家庭にはどのように対応するか、質問があった。これまでも、卒業生から不要になる制服をもらい受け、必要な家庭に貸与している、とのことだった。新しいものは出来るだけ今のものより安くしたいと考えているが、今あるものを安いものに替えることは難しく、何年も同じものを作ってくれるという約束の下に契約を交わしているので、どうしても特定の業者を通す必要がある、とのことだった。

Ⅲ 今後の課題として意識されたいこと

- ・ 部活動の地域移行については、校長会においても話し合いをもち、小中体連を交える中で大会の精選などを行い、大会の運営については教員の O B 等に依頼するなどして、徐々に進めていく方向性が示された。また、指導する人の人間的な要素も考慮に入れつつ進めていくとされた。
- ・ クロームブックの持ち帰りについては、他校や他の地域との差が出ないよう情報を収集するとともに、お互いの活用方法を学びながら、研鑽を積んでいきたい。
- ・ 家庭学習について、「北中ノート」の使用法を含め、クロームブックの持ち帰りによる家庭学習の推進など、共通理解を進めていきたい。
- ・ 不登校の生徒の割合が周辺校と比べ多い傾向があることについて、生徒理解会議等においてスクールカウンセラーも交えて情報交換及び対応を話し合っているが、減少には至っていない。今後も、一人一人との関係を切ることなく、寄り添っていこうと考える。
- ・ 行事の見直しについて、コロナ禍を行事精選の一つのチャンスと捉え、内容を検討していきたい。バザーは負担が大きいことから縮小または廃止の方向で、また、入学式等の行事における来賓招待については必要最小限にし、子どもたちにとってどのようにすることが一番いいかを考え、実施していくことが確認された。

※特記事項

- ・ 特になし

記載責任者（竜王北中学校 学校関係者評価委員長） 氏名：石合 廣光 印